



リポーター

長谷川友利子さん(つつじ野在住)

市民の皆さんにリポーターになっていただき、市内の施設や市の事業をご紹介します。



意識がない人の口の中から異物を取り除くのも手順のひとつ。受講者のまなざしは真剣です

大切な自分の家族の生命は自分で守れるように学びましょう。大切な家族や身近な人の意識がなくなったら、呼吸がなくなり心臓が止まってしまった、けがで大出血しているなど、生命に関わる状態になったとき、慌てずに行動できるでしょうか。そんなときは、大急ぎで119番しますよね。通報から平均6分で救急車は到着します。ところが、心臓が停止してから3分、呼吸が止まってから10分が経過すると、50パーセントの人命が助からないと言われているのだそうです。そこで救急車が到着するまでの間に私たちにできるのが、人工呼吸や心臓マッサージです。これらの手当をすることで、死亡率が大幅に上がるのだそうです。

今回私は消防署を訪ね、救急車が到着するまでに自分でできる応急手当を学ぶ「救命講習会」をレポートします。

講習は、心肺蘇生や止血を学ぶ「普通救命講習」と、さらに水難事故や熱傷への対処、搬送などを学ぶ「上級救命講習」があり、救命手当の重要性を理解することと、心肺蘇生を習得することを目的に、実技を中心に進められます。ここで救命手当を行うときに最も大切な3つの手順を教わりました。意識がないときの「气道確保」、呼吸が止まっているときの「人工呼吸」、そして脈が止まってしまったときの「心臓マッサージ」の3つで、これらがすべての救命手当の基本になるのだそうです。



心臓の正しい位置を確認してマッサージします

救急隊の方は、私たちの世代でふだんは元気に暮らしている人が、疲労などから、寝ているときに突然呼吸や心臓が止まってしまうことがあると話してくれました。また、特にこれから冬に向けて多くなるのが、暖かい居間から急に寒い脱衣場やトイレに行ったとき、脳卒中などで倒れたり、お餅をのどに詰まらせて、息ができなくなってしまう

高齢者の事故だそうです。そんなときこそ、近くにいる家族が、素早く、落ち着いて救命手当をすることが、生命を救うことにつながるのではないかと思います。しかし、私も含め大抵の人は、目の前で家族が苦しんでいるのを見たら、「助けない」と思っても、きつと慌ててしまってしまう。だからこそ、講習会に参加して経験することが大切なのだと思います。本当に自分でできるのだろうかという心配もあります。私自身が実際に体験してみても、経験しているのとは違うのではない、きつと行動が大きく違ってくるだろうと思いましたが、そして救急隊の方も、その場に居たら、ためらわずに実行することが大切です。救急車が着くまでの数分間頑張ってください」と話してくれました。

この講習会は、消防署で開催しているほか、10名程度集まれば、皆さんの地域に出向いて約3時間の講習も行ってくれます。皆さんも救命手当を覚えて、いざというときに備えましょう。大切な家族のためにも、一人でも多くの方に受講していただきたいと思いました。

次世代を担う子ども達との関わりを

皆さんはどのように考えますか

市では、広く市民皆さんの有益なご意見やご提案を市政運営に生かしていくことを目的として、市政モニター制度を設置しています。現在16人のモニターが、身近な生活環境に関すること、市のまちづくりなど、さまざまな視点で活動しています。その中で、「次世代を担う子ども達との関わり」という視点で、青少年教育や生涯学習を含めた地域の教育力を考え、モニターとして、また市民として何ができるのかを探求している方から寄せられたご意見を紹介します。

角田芙美子さん(中央在住)

今の教育現場で起こっている不登校やいじめなどの状況を耳にするたびに胸が痛みます。「地域がうまくいけば、良い子ども達が育つ」と言われますが、私も地域づ

くりが一番大切なことだと思います。しかし、地域の人たちが、現在の教育現場の難しさや、地域で何が大事なことなのかを知って理解しているかといえば、必ずしもそうではありません。意外に、一番身近な地域のことを知らなかったり、切実な問題でも自分たちのこととして受け止められなかったりしています。そんな中で、私の住む地域では、数年前から校長先生が学校便りを回覧してくれて、学校行事や先生方の考え方も分かるようになってきました。

地域づくりは一握りの熱心な人たちだけでは大変なことなのです。子どもと接する機会の少ない高齢者の世代も、子育て真っ盛りの世代も、青年も子どもも一緒になって、地域のことや学校のこと、そして将来のことなどをお互いに思い合い、話す場が必要ではないのでしょうか。

市では、子ども達や地域が抱える問題を共有し、市民皆さんの英知を拝借しながら地域課題の解決にあたりたいと考えています。次世代を担う子ども達との関わりという点で皆さんはどのような考えをお持ちでしょうか。

皆さんのご意見をお寄せください。 担当・広報課



AET corner

Gareth Walker・狭山台中学校勤務

In remote parts of Australia many children aged from 4 and a half to 12 or 13 (Year 7) rely on the School of the Air for their school education.

For 30 minutes each day, Monday to Friday, they get the chance to talk in a lesson to their teacher and classmates using a 2 way radio. They have 5 and a half more hours of schoolwork to do each day. The broadcast area for the Alice Springs school is 13 million square kms. This is 344 times bigger than Japan!! The school currently has 136 students. Most children get the chance to meet each other once or twice a year in Alice Springs or on school trips. As the children are living on cattle stations, Aboriginal communities and national parks in isolated areas, they are often more mature than urban children of similar ages. After Year 7 most children go to boarding school in Alice Springs and can get the chance to see their friends more!

オーストラリアの都会から離れた地域では、4歳半から12歳または13歳(7年生)までの多くの子ども達は、学校教育を無線で行う学校に頼っています。月曜日から金曜日まで毎日30分、先生や友だちと無線によるレッスンで話し合う機会を持ち、毎日5時間半以上の学習をしています。

アリス・スプリングズの学校の放送範囲は130万km²で、日本の344倍の広さです。現在、136人の子ども達が学んでいて、大抵の子ども達は、1年に1~2回、アリス・スプリングズ、または遠足で出会うことができます。子ども達は、牧場、アボリジニの共同生活地域、孤立した地域の国立公園に住んでいます。彼らは同年代の都会の子ども達より、心身ともに成長していることが多いようです。7年生卒業後、多くの子ども達は、アリス・スプリングズにある寄宿学校に行き、もっと多くの友だちと出会う機会ができます。

<ガレス・ウォーカー>(英文の要約)



◀昨年の腕相撲のお店は大人気でした



●地域とのふれあいを大切に(広小祭り)

広小祭りは、各クラスから選ばれた実行委員が中心になって企画します。2年生~6年生の各クラスで、工夫をこらしたお店を考え、祭りが近づくと、自分たちのお店の宣伝ビデオを作って昼休みに放送します。祭りには、児童だけでなく民生委員やPTA、図書ボランティア、青少年健全育成地域会議などの皆さんも出店し、たくさんの地域の方々も来場してにぎやかに行われます。

▶今年の祭りは10月25日に開催します



広瀬小学校